**第22章　衛生**

**医療施設・病床の概況**

　昭和62年の医療施設総数は１万1303施設で、前年に比べ21施設の増加である。これを種類別にみると、病院総数は610施設で、そのうち一般病院が568施設（構成比93.1%）で大半を占め、以下、精神病院41施設、結核療養所１施設の順となっている。なお、人口10万対の病院数は7.0、一般病院で6.5、1施設当たりの人口は、病院総数で１万4326人、一般病院で１万5386人である。また、一般診療所数は6630施設で、前年に比べ54施設の減少、人口10万対の一般診療所数は75.9で、１診療所当たりの人口は1318人である。  
歯科診療所数は4063施設で、前年に比べ65施設の増加、人口10万対の歯科診療所数は46.5で、１診療所当たりの人□は2151人である。  
　全施設の病床数は12万1860床で、前年に比べ3166床（2.7％）の増加である。人口10万対の病床数は1394.4床で、全病床数のうち93.5％が病院、6.5％が一般診療所の病床である。また、一般診療所の病床を含めた一般病床が79.3％で最も多く、以下、精神病床が17.1％、結核病床が2.9%の順となっている。

**死亡の概況**

　昭和62年中の本府の死亡数は４万8488人、10分50秒に１人亡くなったことになる。人口千対の死亡率は5.7で全国（6.2）でも低い方である。  
　主要死因別の順位をみると、第１位は悪性新生物１万4055人（構成比29.0）、以下、心疾患9552人（同19.7％）、脳血管疾患6036人（同12.4％）、肺炎及び気管支炎3627人（同7.5％）、自殺1554人（同3.2％）、慢性肝疾患及び肝硬変1552人（同3.2％）の順となっている。

**伝染病患者の概況**

　昭和62年中の府下における伝染病発生届出総数は、977人で、その内訳をみると、法定伝染病121人、届出伝染病59人、性病797人、ハンセン病１人となっている。

**幼児・児童・生徒の体格**

　昭和62年度における府下の幼児・児童・生徒の平均体格（大阪市を除く）について、５歳（幼稚園）と15歳（高一）を例にみると、男子５歳は身長が110.3cm、体重が18.9kg、胸囲が55.7cm、座高が62.4cmで10年前と比べ、体重が0.1kgとわずかに減少している他はそれぞれ0.5cm、0.2cm、0.5cm伸び、同15歳は身長が167.6cm、体重58.2kg、胸囲82.8cm、座高89.5cmで10年前と比べ、胸囲が0.5cm減少している以外は、それぞれ0.4cm、1.8kg、0.3cm伸びている。  
　また、女子５歳では、身長109.4cm、体重18.5kg、胸囲54.6cm、座高62.0 cmで10年前と比べ体重は変動がないが、他はそれぞれ0.4cm、0.6cm、1.3cm伸び、同15歳では、身長157.4cm、体重51.7kg、胸囲80.4cm、座高85.lcmで10年前と比べ体重以外はそれぞれ0.6cm、0.6cm、0.5cm伸びている。

**公害の現状**

　本府における公害問題は、昭和40年代に深刻な様相を呈するようになったが、事業者及び関係者の理解と協力のもと、各種の公害防止対策を推進してきた結果、全般的には改善の傾向がみられるようになってきた。  
　しかしながら、窒素酸化物による大気汚染、一部の河川や大阪湾の水質汚濁などが解決すべき課題として残されている。さらに、交通公害問題や近隣騒音問題など日常生活に起因する都市・生活型公害や廃棄物問題などが重要な課題となっている。  
　なお、62年度の本府及び市町村に寄せられた公害苦情件数は5338件で、騒音が最も多く2235件（41.8％）、次いで大気汚染が1108件（20.7％）となっている。